二〇一二年九月一八日（法隆寺 参加者一五人）

松が枝に透きて塔見ゆ古都の秋　わかば
薄紅葉雨に濡れたる石畳　〃
竹林に透けて展けし豊の秋　〃
秋草の畦分けて訪ふ古墳かな　〃
魁はいろはもみぢや寺の秋　〃
斑鳩の里山ゆけば葛匂ふ　百合
柿たわわなる斑鳩の道が好き　〃
秋雨に水煙烟る法隆寺　〃
柿落葉拾ひて古都の栞とす　〃
仏塚古墳に佇てば秋蝶来　〃
古墳あり四囲に稔田展けけり　陽子
露草の屯々や野路親し　〃
分け入りてかやつり草のもつれかな　〃
猪ぶたの憎しと里の翁かな　〃
築地塀ぬけて展けし豊の秋　はく子
爽やかや咫尺に拝す微笑仏　〃
急磴に展けし里の豊の秋　〃
夢殿へ道はまっすぐ初もみじ　〃
鐘響く広き寺領や秋澄める　つくし
巡拝の史跡の径は豊の秋　〃
閉ざされし旧トンネルや葛襖　〃
柿たわわ斑鳩寺の裏山路　せいじ
稔り田の香が通ひ来る古墳かな　〃
虫すだく土塀に沿ひし草の道　〃
つばくらめ棚田を掠め掠めけり　菜々
いかるがの里吟行す子規忌かな　〃
仏塚古墳へ畦の彼岸花　〃
草の花古墳の口を彩りぬ　宏虎
鏡池渡る風あり水の秋　〃
野路愉しそぼ降る雨に昼の虫　ぽんこ
垣根とし道に横たふへちまかな　〃
寺領なる雨の小路のこぼれ萩　よし子
塔仰ぐ秋雨傘を傾けて　〃
裏山は竹の春なる法隆寺　有香
すぐそこと標にあれど秋暑し　満天
寺領なる築地塀沿ふ初紅葉　〃
秋時雨行書の句碑をぬらしけり　〃
秋草を供花とす畦の石仏　〃

吟行句会みのる選

二〇一二年九月一八日（法隆寺 参加者一五人）